

第3章 北竜町のひまわり

小原 悠希

3.1 北竜町の概要

北竜町は北海道のやや中央にあり、空知管内の北部に位置している。広さは東西に 28km、南北に 14km で、総面積 158.82 km² となり、暑寒別岳を主峰とする増毛山脈と、その支脈が町内を走り、全面積の 70% が山林となっている。また、人口は、2425 人、世帯数は、897 世帯である。(2006 年 4 月 1 日現在)

また、雨竜川他三川流域を主として肥沃な土地と豊かな水資源のもと、稲作を基幹作物とした農業のまちである。稲作については、低農薬、有機肥料等のクリーン農業により生産され米は「ひまわりライス」の名で販売されている。

水田転作により果菜類やひまわりの作付けも盛んで北竜産メロン龍の鈴、北竜ひまわりすいか(黄色小玉西瓜)は道内でも有数の生産地となっている。

ひまわりの作付面積 100ha は全国一を誇っていて、最近ではひまわりが観光として一躍脚光を浴びて、開花シーズンには 20 万人以上の観光客が訪れるようになっている。



図 3-1 北竜町のひまわり

(出典：北竜町役場 HP)

3.2 ひまわりに取り組むきっかけ

1979 年 7 月ヨーロッパ視察研修に参加した農協職員が、旧ユーゴスラビアのベルグラード空港周辺一面に広がるひまわり畑の美しさに驚き、着陸する様は、あたかも黄色いひまわりに舞い降りる蝶々のような感動を覚えた。栽培理由を尋ねると全部食用油で、動脈硬化、高血圧、心筋梗塞などを予防する、リノール酸やビタミンEそして必須アミノ酸や鉄、カルシウム、リン、カリウムと言ったミネラルを豊富に含み、食事の欧米化に伴い良質の

植物油を摂取することが大事なことを教わった。

その頃農協女性部では、自給自足により「家庭の健康を守る運動」として食生活の改善に取り組んでいた。そこで自家消費の食用油をひまわり油に替え、家の周りにひまわりを植えることにより環境美化にもつながる事もあり、「一戸１アール運動」に取り組む事にした。

ひまわり栽培は全くの素人であったが、ホクレンと農業試験場の指導を受け 1980 年農協女性部 422 戸により、4.2ha のひまわりが作付けされた。農協では、ひまわり搾油機を導入して農家にひまわり油と堆肥としてカスを還元した。

表 3-1 ひまわりの取り組みの経過

1980 年	農協女性部が家庭用食用油の自給自足を目的として「一戸１アール作付け運動」に取り組んだ
	ひまわり油搾油機ほか関連機器を導入し搾油開始
1981 年	台風被害で倒伏が多かった
	専修大学北海道短期大学吉田富穂教授・新家憲司教授 ひまわり油によるディーゼルエンジンの代替燃料を発表
1982 年	北竜町の町花に「ひまわり」を制定する
	ひまわりの商品開発、栽培研究、PR 活動に取り組む
	ナッツ加工機器の導入
1987 年	第 1 回ひまわりまつり ひまわりの塔を譲り受ける（札幌花と緑の博覧会で NHK が太陽の塔として使ったもの）
1989 年	ひまわりの里 6ha を造成
1997 年	ひまわり観光センターを建設
1998 年	ひまわりの里 13ha に拡大
2000 年	ひまわりの里 14.51ha に拡大
	ひまわり花火大会の実施
2001 年	ひまわりサポーター募集、ひまわりの里草取り十字軍に町民 324 名が参加
	ひまわりの里 竜巻に襲われる
	ひまわりの里 16.81ha に拡大
2003 年	ひまわりの里 20.8ha に拡大 100 万本のひまわり
2004 年	猛暑でひまわりの開花があっという間に終わる
	ひまわり IC が開通する
2006 年	ひまわりの里 23.13ha に拡大、過去最大作付面積 130 万本
	ひまわりの里に散策路を造成

表 3-2 ひまわり製品

ひまわり油	ひまわりナッツ	ひまわりハチミツ	北のひまわりソレイユ
ひまわりラーメン	ひまわりくん	ひまわり餅	ひまわり蜂蜜かりんとう
ひまわりハチミツ飴	ひまわりの夢	ひまわりクッキー	ファミリーケーキひまわり
ひまわりワイン	ひまわりせんべい	ひまわりの里	ひまわりソフトクリーム
ひまわりパイ	ひまわり畑	ひまわりおやき	ひまわりアイス
ひまわりおこし	ひまわりライス	ひまわりすいか	ひまわりものがたり

3.3 ひまわりの里作り

1989 年、国道 275 号線沿いの約 4.4ha の畑を持つ人が、高齢に加え病気になり畑の管理を頼みたいとまちと農協に申し出た。まちでは、年々増えるひまわり観光客に、集客用ひまわり畑を固定させたいとかねてより考えがあったため、まちで借りる事にした。

農村の過疎化を食い止めるには、「まず自分たちのまちに誇りが持てる特色づくりをした」という農協青年部が、トラクター10 数台を持ち寄り商工青年部、役場・農協・商工会・改良区の職員が協力し、僅か 1 日で畑を耕し、肥料を入れて種を播いた。カルチも農協青年部が機械を持ち寄り行った。草取りは全町に無線で呼びかけ鍬を持ち寄り行った。当初は全て町民のボランティアで行われた。

老人クラブの人々は、それからずっと毎年 200 名近い会員が集まり草取りを行っている。そして 2001 年からは、初心に返り「ひまわり草取り十字軍」として全町に呼びかけ、300 名以上が参加している。

ひまわりは背も高く大輪の花を咲かせるため、風雨に弱く病気(灰色カビ病、キンカク病)が発生しやすい。それにより、連作がきかず、加えて大きな植物のため土壌の養分を吸い取り土地が痩せ細り、他の作物に比べて生産性が低いなどハンディのある作物である。

但しプラス面として、一つには、土壌中の VA 菌根菌(植物にリンを供給する菌)の密度を高める効果が高い。二つには、深根性(土の中に深く根を張る)が高い等がある。

それでもあえてハンディのあるひまわりに取り組んでいるのは、プラス思考で考えれば、これだけハンディのある作物だからこそ、どこのまちにも真似の出来ないオンリーワンとして、北竜町の顔としてブランド化することが出来たからである。

加えて、ひまわりは東を向いて開花する性質を持っているため、何処彼処に植えても景觀とマッチせず、なだらかな東向きの心地よい傾斜地(ランドスケープ)をなすひまわりの里のような広大な畑はなかなか見つからない状況である。

3.4 ひまわりの連作障害を克服

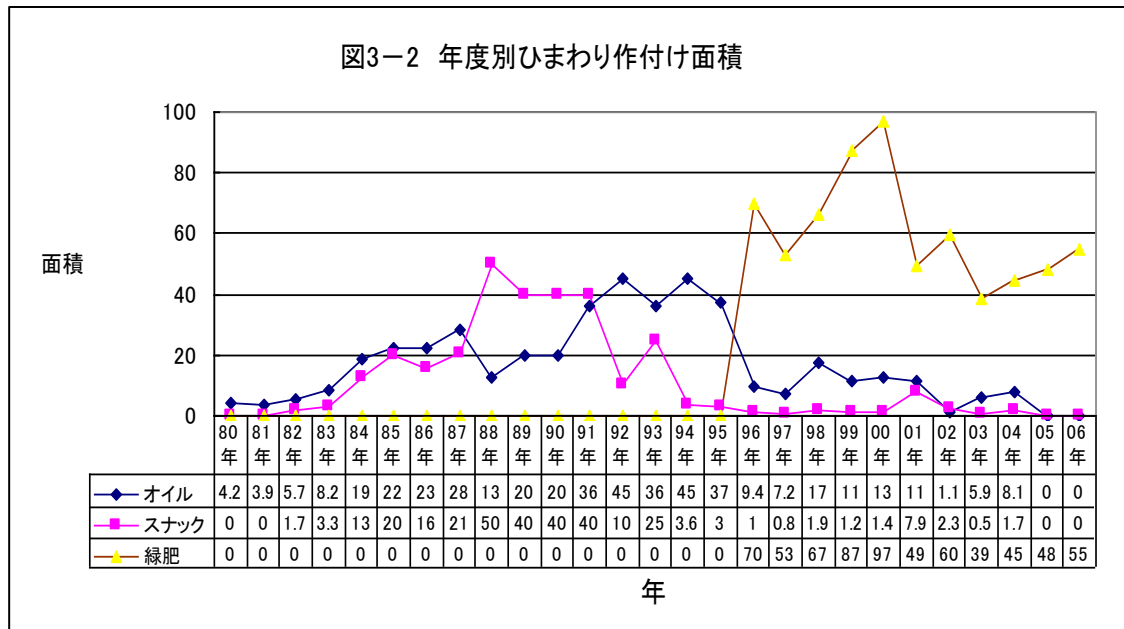
ひまわりの里は土地が痩せていて土壌改良の必要があった。

その頃暗渠排水事業で出る泥炭をひまわりの里に投入して、長期的に土づくりを行う方法がとられた。しかし、泥炭には切り株や幹や大きな石が混ざっているため、各団体の職員がぬかるみに長靴をとられながら手作業で運び出し、切り株や石が山のように積まれた。

ひまわりは大輪で背丈も高いため、土壌の養分をほとんど吸ってしまう。米以外の作物には連作障害がつきものである。しかし、毎年ひまわりの里の場所を替えることもできない。ひまわりの里のひまわりは、ひまわりまつりが終わると頃合いを見てチョッパーを掛けて切り倒し、トラクターで土の中に鋤き込んでしまう。そして翌年のひまわりの養分にしている。これを緑肥という。また、ひまわりの里には毎年町内の堆肥生産組合から 450t を超える牛糞堆肥を投入している。加えて、ひまわりの里は緩やかであるが傾斜地となっており、春先の雪融けにより肥えた表土が流出するため、秋にエン麦を播いてその防止を図るとともに、翌年の耕起に土に鋤き込んで、これも又ひまわりの栄養分にしている。

試験に試験を重ねた結果、1989 年よりずっと連続して同じ畑に大輪のひまわりを咲かせ続けることができるわけである。

ひまわりの作付面積を下にあげる。

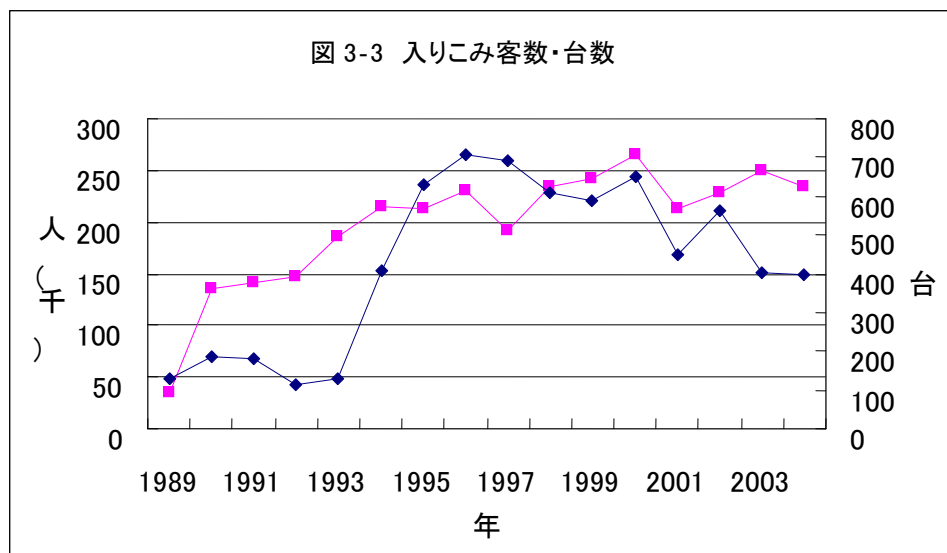


(出典：北竜町役場 HP を基に筆者作成)

この表から、オイル・スナックの生産が衰退し、緑肥の生産が代わりに伸びていることが分かる。緑肥としてのひまわりの作付面積が増えた理由は、有機物の投入としてのねらいの他に、VA 菌根菌共生作物として、後作のリン酸吸収促進効果を期待して増加したと

推測される。しかし、+アルファのモノを創造することができなかった点では、成功しなかったともいえよう。

次に、ひまわりの里入り込み客数、バス台数を下にあげる。



(出典：北竜町役場 HP を基に筆者作成)

ひまわりの里には、ひまわり畑をトラクターに引かれて一周することができる遊覧車「ひまわり号」、ひまわりダチョウ迷路がある。また、隣接する道の駅「サンフラワーパーク」には、特産品の販売はもちろん、温泉・宿泊施設が備わっている。温泉は、ひまわりの花や茎の成分を利用した「ひまわり湯」を使用。肌が滑らかになると好評である。大浴場や露天風呂、泡風呂、高温サウナをはじめ、充実した設備で疲れを癒す。

3.5 終わりに

北竜町には、春には桜が咲き、キャンプもできる金比羅公園、憩いの場として多くの人に親しまれている「イチイの森」、水量の多さと轟音に圧倒される「三段の滝」がある。

そこで、例えば単純ではあるが、今まで挙げた、ひまわりの里、サンフラワーパーク、金比羅公園、イチイの森、三段の滝などを一度に回れるバスツアーを企画するなどして、観光客を増やす術を考えることが重要ではないだろうか。

参照 HP

北竜町役場 <http://www.town.hokuryu.hokkaido.jp/index.jsp>

北竜町商工会 <http://www9.ocn.ne.jp/~hokusyo/>